

命を守るための行動 「早めの避難」を見直す



普段の加茂原(上)と熊木川が氾濫した加茂原(下)



西日本を中心に、広い範囲で記録的な大雨となった平成30年7月豪雨。岡山県や広島県、愛媛県などで河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、死者・行方不明者が2000人を超えるなど、豪雨災害では平成最大の犠牲者数となりました。豪雨になる前にはニュースや天気予報などで、重大な災害が起こる恐れがあるため、厳重な警戒が必要だと呼び掛けていました。さらに気象状況の悪化に伴い、多くの被災地では避難勧告が発令されるなど、避難行動が促されたものの、逃げ遅れるなどが原因で多くの人が亡くなる結果に。

同年8月末に七尾市も集中豪雨に遭いました。幸い人的被害はありませんでしたが、河川の

越水や堤防の決壊で231棟の住宅が床下、床上浸水となったほか、山間部では土砂崩れも発生し、大きな被害を受けました。災害は、思いもしないところで突然発生します。災害の規模が大きいほど行政などの緊急な救助・救援が難しく、地域で協力して災害に備えることが重要となります。いざというときの避難行動を、いま一度見直してみよう。

市内には防災の知識と技能を持ち、防災活動の中心となることが期待される防災士が約220人います。豪雨の被害が大きかった中島地区では「中島町防災士会」を組織し、地域の防災、減災に関する啓発や技能の向上に努めています。会長の杉田利一さんに、防災への思いを伺いました。

まずは自分の命を守るように

中島町防災士会

杉田 利一 会長

中島町防災士会は平成29年の11月に発足し、現在会員は36人です。今後の目標は1町会に1人以上の防災士を置くとともに、各町会の自主防災組織の活動を促進することです。

昨年と同じような豪雨災害がいつ、どこで発生するかわかりません。日頃から地域の皆さまに防災意識を高めてもらうため、防災キャンペーンで被災地のパネルや中学生のポスター・標語の応募作品の展示などを行ってきました。今後もさらに防災対策の周知に努めていきます。

いざというときに、まずは自分の命は自分で守る「自助」。身の安全が確保できたら周りを助ける「共助」。この2つを心掛け、自分がすべき行動を今のうちから確認しておくことが大切です。



杉田 利一 会長

5段階の警戒レベルによる避難勧告等の発令

気象情報や自治体からの避難情報、それに対応する住民の取るべき行動を見直しました。今後は5段階の警戒レベルを用いて避難情報をお伝えします。テレビやインターネット、インフォメールなどでお知らせを確認し、早めの避難行動を心掛けましょう。

避難勧告などの発令とともに、警戒レベルもお知らせします。
例「袖ヶ江地区に警戒レベル4、避難勧告を発令します」

危険度	気象情報(警戒レベル相当情報)	警戒レベル	住民に促す情報	取るべき行動	発令主体
高	<ul style="list-style-type: none"> 既に災害が発生している状況 大雨特別警報 	5	災害発生情報	命を守るための最善の行動	七尾市が発令
	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒情報 	4	避難指示(緊急) 避難勧告	全員避難 ・指定された避難場所への避難行動	七尾市が発令
	<ul style="list-style-type: none"> 大雨警報 洪水警報 	3	避難準備 高齢者等避難開始	高齢者等は避難 ・高齢者や障害のある人、乳幼児など避難に時間がかかる人は速やかに避難 ・ほかの住民は避難の準備	
	<ul style="list-style-type: none"> 大雨注意報 洪水注意報 	2	注意喚起	避難行動の確認 ・ハザードマップで避難場所や避難経路などを再確認 ・避難情報の確認や注意	
低	<ul style="list-style-type: none"> 早期注意情報(警報級の可能性) 	1	注意喚起	災害への心構えを高める ・防災気象情報などの最新情報に注意	気象庁が発表

問 総務課防災対策室 ☎53-6880